

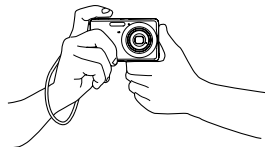
静止画を撮影する

カメラの正しい構えかた

カメラは、片手で持つと手ブレの原因になります。両手でしっかり持って撮影してください。

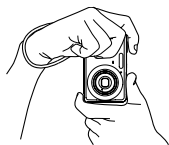
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。

横に持つとき



図のように持ち、脇をしっかり締めてください。

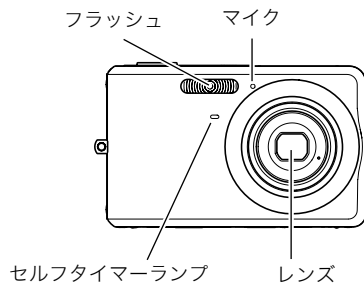
縦に持つとき



レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

重要

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。



参考

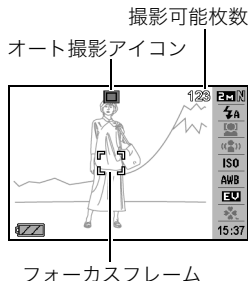
- シャッターを押し切った瞬間にカメラがぶれたり、オートフォーカス動作中(シャッター半押し時)にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

撮影する

1. **【】(撮影)**を押して撮影モードにする

液晶モニターに、被写体(人や風景など)と、オート撮影アイコン“”が表示されていることを確かめます。

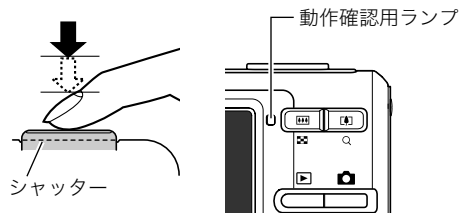
オート撮影アイコン“”以外のアイコンが表示されるときは、“オート”に切り替えます(67ページ)。



2. ピントを合わせる

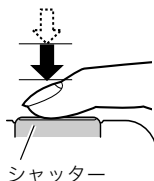
フォーカスフレームを被写体に合わせ、シャッターを半押しします。

オートフォーカス機能で自動的にピントが合い、フォーカスフレームと動作確認用ランプが緑になります。また、絞り値、シャッター速度、ISO感度が自動的に決まります。



3. 撮影する

ピントが合った状態でシャッターを最後まで押し込みます。



撮影した静止画は、順次、メモリーカードまたはカメラの内蔵メモリーに保存されていきます。

参考

- 絞り値は、光の入り口の大きさを示します。絞り値が大きいほど光の入り口は狭くなります。本機では、自動的に調節されます。
- シャッター速度は、光を取り入れる時間を示します。シャッター速度が遅いほど光を取り入れる時間が長くなります。液晶モニターに表示されるシャッター速度の単位は秒です(1/1000秒など)。本機では、自動的に調節されます。

ピントが合っていない場合

フォーカスフレームが赤のまま、動作確認用ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていません(被写体との距離が近すぎるときなど)。もう一度カメラを被写体に向け直して、ピント合わせをしてみてください。

撮影した静止画を確認するには

撮影した静止画は少しの間液晶モニターに表示されますが、すぐに消え、次の撮影ができる状態になります。

撮影した静止画をゆっくり確認したいときは、**【▶】**(再生)を押して再生モードにします。**【◀】****【▶】**を押すと、前後の画像を確認することができます。

撮影モードに戻るには

【📷】(撮影)を押します。

■ シャッターを半押しせずに一気に押し込んだときは

シャッターを半押しせずに一気に押し込んでも、静止画を撮影することができます。ただし、クイックシャッター(84ページ)の設定状態により、カメラは次のように動作します。

クイックシャッターが“入”のときは

通常のオートフォーカスよりはるかに高速でピントを合わせるので、シャッターチャンスを逃さず撮影できます。動きの速い被写体を撮影するときに便利です。

- 正確にピントが合わない場合があります。
- お買い上げ時はクイックシャッターが働く状態になっています。

クイックシャッターが“切”のときは

通常のオートフォーカス機能によりピントを合わせたあとと撮影します。

- シャッターを押し続けると、ピントが合わなくても撮影されます。
- 多少時間がかかっても正確にピントを合わせたい場合は、シャッターを半押ししてピントを合わせたあとと撮影してください。

画像サイズを決める

デジタルカメラの画像は、小さな点(画素・pixels)の集まりです。画像サイズとは、その画像がいくつの画素でできているかを示すもので、横×縦の画素数で表します。お買い上げいただいたときは、7M (3072×2304)(画素・pixels)で撮影するように設定されています。画像サイズが大きいほど、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→186ページ
ここでの設定は、静止画撮影時のみ有効です。
- 動画の画像サイズについて→62ページ

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの1番上の項目(画像サイズ)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で画像サイズを選び、【SET】を押す

参考

- 画像サイズを選ぶ操作中は、以下の情報が切り替わり表示されます。
 - 画素数で示す画像サイズ(1600×1200など)
 - 最適なプリント用紙のサイズ
 - 撮影可能枚数

画素数(pixels)			プリント用紙のサイズ
大きい ↑ ↓ 小さい	7M	3072×2304	A3プリント
	3:2	3072×2048	A3プリント
	16:9	3072×1728	HDTVサイズ
	5M	2560×1920	A3プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
	2M	1600×1200	L判プリント
	VGA	640×480	Eメール

- 3:2(3072×2048 pixels)を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9で、従来のテレビの画面(4:3)より横長(ワイド画面)になります。本機はこのHDTVの画面(ワイド画面)の横縦比に合わせて撮影することができます。
- VGA(640×480 pixels)は、Eメールで画像を送るときに最適なサイズです。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。

画質を決める

本機では、「高精細-F」(画質優先)、「標準-N」、「エコノミー-E」(撮影枚数優先)のいずれかの画質を選ぶことができます。お買い上げいただいたときは、「標準-N」で撮影されるように設定されています。画質を優先したいときは「高精細-F」を、撮影枚数を優先したいときは「エコノミー-E」を選んでください。

- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→186ページ
ここでの設定は、静止画撮影時のみ有効です。
- 動画の画質について→62ページ

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“画質”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で画質を選び、【SET】を押す

参考

- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、「高精細-F」にすることで、緻密な画質で撮影できます。

手軽に撮影する(easy(簡単撮影)モード)

easy(簡単撮影)モードに設定すると、難しい設定を心配せず、手軽に撮影することができます。初心者の方におすすめのモードです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの下から2番目の項目(easyモード)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で“ ON”を選び、【SET】を押す
easy(簡単撮影)モードに設定されます。

4. ピントを合わせる

フォーカスフレームを被写体に合わせ、シャッターを半押しします。

5. 撮影する

ピントが合った状態でシャッターを最後まで押し込みます。

■ easy(簡単撮影)モードのメニュー設定について

easy(簡単撮影)モードでは「フラッシュ」、「セルフタイマー」、「画像サイズ」、「easyモード」の4つのメニュー項目のみが設定できます。それ以外の撮影設定タブ(173ページ)／画質設定タブ(174ページ)のメニュー項目は撮影に最適な状態に固定され、通常の撮影モードで設定した状態は反映されません。

重要

- 設定タブ(175ページ)のメニュー項目を設定したい場合は、以下の操作3で「easyモード」を**OFF**に設定して、通常の撮影モードに切り替えてから行ってください。

1. 【MENU】を押す

easyメニュー画面は、通常のメニュー画面よりも大きな文字で表示されます。



2. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

メニュー項目	設定内容
フラッシュ	(フラッシュオート)* / (強制発光) / (発光禁止)
セルフタイマー	(10秒セルフタイマー) / OFF *
画像サイズ	7M * / BM / UGA
easyモード	ON / OFF *
メニュー終了	easyメニュー画面から抜けます。

- 「*」この印のある項目は初期値です。
- メニュー項目「フラッシュ」、「セルフタイマー」、「画像サイズ」の設定内容は、下記のページを参照してください。
 - 「フラッシュを使う」(49ページ)
 - 「セルフタイマーを使う」(53ページ)
 - 「画像サイズを決める」(43ページ)
- メニュー項目「easyモード」の設定内容は、下記の通りです。
 - ON**: easyモードのまま、他のモードに切り替えません。
 - OFF**: easyモードから通常の撮影モードに切り替えます。
- 吹き出しで簡単な設定内容の説明が表示されます。

静止画撮影時のご注意

■ 操作について

- 動作確認用ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。今撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

■ 撮影時の画面について

- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質で撮影されます。
- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。

■ 蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微かなちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

オートフォーカスの制限事項

- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
 - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
 - 強い逆光のもとにある被写体
 - 明るく光っている被写体
 - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 - 暗い場所にある被写体
 - 手ブレをしているとき
 - 動きの速い被写体
 - 撮影範囲外の被写体
- 動作確認用ランプが緑色に点灯している、またはフォーカスフレームが緑になっている場合でも、ピントが合わないことがあります。ピントが合わない場合は、フォーカスロック(84ページ)やマニュアルフォーカス(85ページ)で撮影してみてください。

ズーム撮影する

本機では、光学ズーム(レンズの焦点距離を変える方式)で3倍まで、デジタルズーム(画像中央をデジタル処理で拡大する方式)でさらに12~45.2倍(光学ズームとの併用)までのズーム撮影ができます。デジタルズームの倍率は、画像サイズ(43ページ)の設定によって異なります。

重要

- デジタルズームでは、倍率が高くなるほど撮影画像は粗くなります。ただし、本機では一部粗くならず撮影できる範囲があります(48ページ)。
- タイムスタンプ(92ページ)を設定して撮影すると、デジタルズームは動きません。

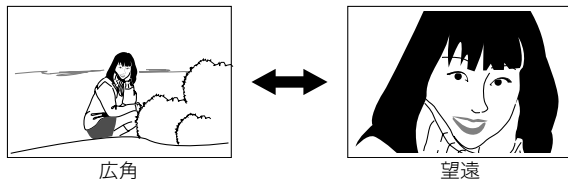
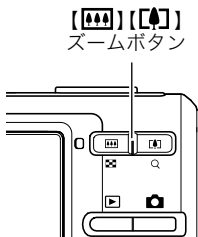
1. 撮影モードにする

2. ズームボタンを押して、ズームの倍率を変える

【】(望遠): 被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

【】(広角): 被写体が小さくなり、写る範囲が広がります。

→「光学ズームとデジタルズームの切り替えポイント」
(48ページ)



3. シャッターを押して撮影する

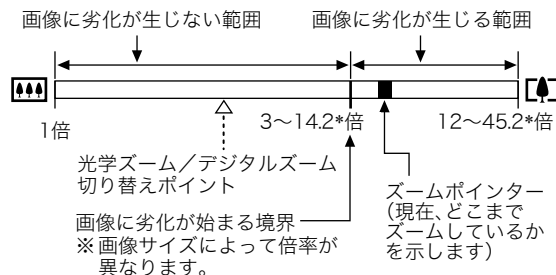
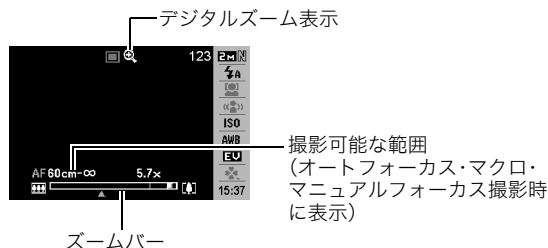
参考

- 光学ズームを動かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。シャッターを押す前であれば、光学ズームは使用できます。

■ 光学ズームとデジタルズームの切り替えポイント

手順2でズームボタンの【】を押したままにすると、光学ズームの倍率が最も高くなったところでズーム動作が停止します。いったん離し、続けてズームボタンの【】を押すとデジタルズームも作動し、さらにズームの倍率が高くなっていきます。

- デジタルズームに切り替わると、液晶モニターにデジタルズーム表示が現われます。また、ズームバーでおおよその倍率を確認することができます。



● 各画像サイズでのズーム倍率の違い

	画像に劣化が生じない範囲 (HDズーム含む)		画像に劣化が生じる範囲
7M	1倍	3倍	12倍
3:2	1倍	3倍	12倍
16:9	1倍	3倍	12倍
5M	1倍	3.6倍	14.2倍
3M	1倍	4.5倍	17.9倍
2M	1倍	5.7倍	22.6倍
VGA	1倍	14.2倍	45.2倍

- デジタルズームの倍率は画像サイズ(43ページ)の設定によって異なります。画像サイズが小さいほど高倍率になります。
- 一般的にデジタルズームを使用した画像は粗くなりますが、本機では、画像サイズが“5M(2560×1920 pixels)”以下の場合、画像は粗くならない範囲があります(HDズーム)。液晶モニターには、デジタルズームしても劣化しない倍率の境界が表示されており、その境界までは劣化せずにズームできます。劣化しない倍率は、画像サイズによって変化します。
- ズームバーのデジタルズームの範囲は、デジタルズームが“入”に設定されているときのみ表示されます。

■ デジタルズームをオフにする

ズームボタンの【**L**】を押しても、デジタルズームを使わないようにすることができます。ズームによって画像を劣化させたくないときにご利用ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“デジタルズーム”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“切”を選び、【SET】を押す
 - デジタルズームを使えるようにするには、ここで“入”を選びます。

フラッシュを使う

撮影条件に合わせて、フラッシュの発光方法を切り替えることができます。

発光方法	説明
 フラッシュオート	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。 お買い上げ時の設定です。
 発光禁止	フラッシュは発光しません。
 強制発光	フラッシュは常に発光します。 日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
 ソフト発光	露出に関係なく光量を抑えて発光します。 フラッシュの反射など光量を抑えたい場合に使用します。
 赤目軽減	フラッシュオートと同じように自動発光します。フラッシュ撮影時に、人の目が赤く写る現象を軽減することができます。

フラッシュが届く範囲(ISO感度:オート時)

広角時:約0.1m~約3.5m

望遠時:約0.6m~約1.9m

- 光学ズームに合わせて撮影範囲は変化します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から2番目の項目(フラッシュ)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す

液晶モニターにフラッシュの発光方法が表示されます。



4. シャッターを押して撮影する

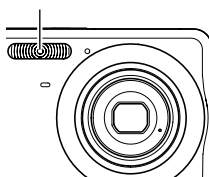
参考

- 操作パネルが“切”(36ページ)のときは、【▼】()を押すことで発光方法を選ぶことができます。

重要

- フラッシュ撮影時は、フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。

フラッシュ



赤目軽減について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

重要

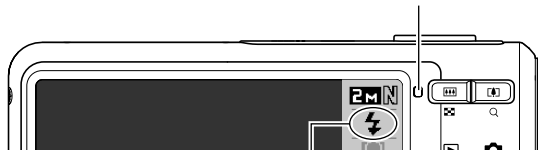
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
 - 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
 - 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

■ フラッシュの状態を確認する

シャッターを半押ししてピント合わせをしているとき、液晶モニターや動作確認用ランプでフラッシュの状態を確認できます。

動作確認用ランプ

フラッシュ充電中はオレンジ色に点滅します。



フラッシュ発光時は“”を表示

- 充電が完了して動作確認用ランプのオレンジ色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

■ フラッシュの強さ(光の量)を変える

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“フラッシュ光量”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】でフラッシュの強さを選び、【SET】を押す
-2(最も弱い)から+2(最も強い)の5つから選べます。

重要

- 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、強さが変わらないことがあります。

■ フラッシュ撮影時の光量不足を補う (フラッシュアシスト)

フラッシュが届く範囲よりも遠い被写体を撮影すると、フラッシュの強さが充分でないため、被写体が暗く写ってしまうことがあります。フラッシュアシスト機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光が遠くへ届いたときと似た効果が得られます。



フラッシュアシスト機能を使わないと



フラッシュアシスト機能を使うと

お買い上げいただいたときはフラッシュアシスト機能が働くように設定されています。

フラッシュアシスト機能を使わないときは、次のように操作します。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “画質設定”タブ→“フラッシュアシスト”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“切”を選び、【SET】を押す

フラッシュアシスト機能を使うときは、ここで“オート”を選びます。

重要

- 被写体によっては思ったような効果が得られないことがあります。
- 下記の操作を行うと、フラッシュアシスト機能を使っても撮影結果にほとんど変化が表れないことがあります。
 - － フラッシュの強さを変えたとき (51ページ)
 - － 明るさを補正 (EVシフト) したとき (86ページ)
 - － ISO感度を切り替えたとき (89ページ)
 - － コントラストの設定を切り替えたとき (92ページ)

■ フラッシュ使用時のご注意

- 被写体までの距離が遠かったり近かったりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、使用条件 (電池の状態や周囲の温度など) により異なります。フル充電の電池では、数秒～7秒程度かかります。
- 暗い場所でフラッシュを発光禁止にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使う

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる(撮影される)ようにすることができます。

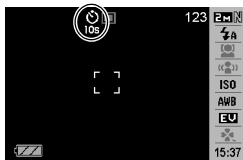
セルフタイマーの種類	説明
 10秒	10秒後に撮影されます。
 2秒	2秒後に撮影されます。 シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
 x3 (トリプルセルフタイマー)	10秒後に1枚、その後、次の撮影準備完了の1秒後に1枚、その次の撮影準備完了の1秒後に1枚の計3枚撮影されます。
切	セルフタイマー撮影はできません。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“セルフタイマー”と選び、【▶】を押す

3. 【▲】【▼】でセルフタイマーの種類を選び、【SET】を押す

液晶モニターにセルフタイマーの種類が表示されます。



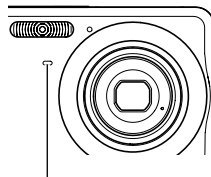
4. シャッターを押して撮影する

参考

- 動画撮影時は操作パネル(37ページ)を使用して、セルフタイマーの種類を切り替えることもできます。

セルフタイマーを使って撮影すると

- シャッターを押してもすぐには撮影せず、設定した時間が経過すると撮影されます。設定した時間をカウントしている最中は、セルフタイマーランプが赤に点滅します。
- カウントダウン中にシャッターを全押しすると、セルフタイマーを解除することができます。



セルフタイマーランプ

参考

- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると“1sec”と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
- 下記の撮影では、全てのセルフタイマーが使用できません。
 - 通常連写、高速連写
 - ベストショット撮影の一部(“ショートムービー”、“パストムービー”、“レイアウトショット”、“オートフレーミング”、“ボイスレコード”)
- 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーが使用できません。
 - フラッシュ連写
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“証明写真”、“ムービー”、“YouTube”)

何枚も連続して撮影する(連写)

本機は3種類の連写(連続撮影)ができます。

連写の種類	説明
 通常連写モード	メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。
 高速連写モード	通常連写よりも速い間隔で、メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。ただし、記録する画像サイズは、2M(1600×1200 pixels)に固定になります。
 フラッシュ連写モード	フラッシュを発光し、最大3枚まで連続撮影ができます。

連写の種類を選ぶ

- 撮影モードにして【MENU】を押す
- “撮影設定”タブ→“連写”と選び、【▶】を押す
- 【▲】【▼】で連写の種類を選び、【SET】を押す
液晶モニターに連写の種類が表示され、連写モードになります。
連写モードを解除するときは、“切”を選びます。

通常連写モード／高速連写モード／フラッシュ連写モードで撮影する

1. シャッターを押して撮影する

- 通常連写モード、高速連写モードではシャッターを押している間、連続撮影します。シャッターから指を離すと、撮影を停止します。
- フラッシュ連写モードではシャッターを押している間、最大3枚まで連続撮影します。3枚撮影する前にシャッターから指を離すと、撮影を停止します。

重要

- 通常連写、高速連写の速度は、使用するカードの種類やメモリーの空き容量によって異なります。内蔵メモリーを使用すると連写の速度は遅くなります。

連写時のご注意

- 連写では、露出／フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されますので、2枚目以降は1枚目と同じ露出／フォーカス位置で撮影されます。
- 下記の撮影では、連写はできません。
 - ー 顔認識撮影
 - ー ベストショット撮影の一部(“レイアウトショット”、“オートフレーミング”、“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“証明写真”、“ムービー”、“ショートムービー”、“バストムービー”、“YouTube”、“ボイスレコード”)
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないように注意してください。
- 連写中にメモリーの残り容量が足りなくなった場合、連写は途中で終了します。
- 連写の速度は、設定されている画像サイズや画質によって異なります。
- 通常連写では、フラッシュモードを切り替えることができます。
- 高速連写では、フラッシュは自動的に“” (発光禁止) となります。
- フラッシュ連写では、フラッシュは自動的に“” (強制発光) となります。
- 高速連写／フラッシュ連写は、通常の撮影と比較すると、解像感が多少落ちたり、ノイズが多少増えます。
- 高速連写／フラッシュ連写では、ISO感度がどこに設定されていても常に“オート”に設定されます。
- フラッシュ連写では、フラッシュ撮影範囲が狭くなります。

静止画に音声を加える(音声付き静止画)

静止画に音声を付け加える(録音する)ことができます。撮影した静止画の説明を自分の声で録音する、その場の雰囲気も音と一緒に残す、撮影された人の言葉も残すなど、自由にご利用ください。

- ひとつの静止画につき、最長約30秒まで録音できます。

■ 音声録音できる状態にする

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“音声付静止画”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

■ 音声を録音する

1. シャッターを押して、静止画を撮影する
撮影した画像とともに“”が表示されます。

- 録音しないときは、【MENU】を押します。次の静止画を撮影できる状態になります。



録音可能時間

2. もう一度シャッターを押して録音を開始する

3. さらにもう一度シャッターを押して録音を終了する
シャッターを押さなくても、約30秒経過すると録音は終了します。
 - 音声付き静止画撮影をやめて、通常の静止画撮影に戻るときは、「音声録音できる状態にする」の手順3で“切”を選びます。

録音した音声を聞くには

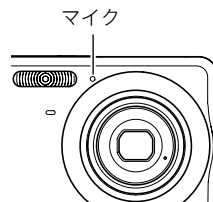
再生モードで音声付きの静止画を表示すると、液晶モニターに“”が表示されます。

【SET】を押すと、音声の再生が始まります。

- 操作について詳しくは100ページをご覧ください。

★ 重要

- 指などでマイクをふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。



参考

- 音声付き静止画は、パソコンに保存して、QuickTimeで再生することができます(155ページ)。
- 音声付き静止画のデータ形式などは以下のとおりです。
 - 画像形式: JPEG(拡張子は、JPG)
 - 録音形式: WAVE/ADPCM記録形式(拡張子は、WAV)
 - 音声ファイルサイズ: 約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)
- 音声録音中に【▲】(DISP)を押しても、液晶モニターは切り替わりません。
- トリプルセルフタイマーを使った撮影、および連写撮影では、音声付きの静止画撮影はできません。ただし、撮影後の静止画に音声を追加することができます(123ページ)。

人物の顔をきれいに撮影する(顔認識)

人物を撮影するとき、人物の顔に優先的にピントや明るさを合わせて撮影することができます。以下の2つの顔認識の方法があります。

顔認識の方法	説明
 通常認識モード	人物の顔を検出し、ピントや明るさを合わせて撮影します。 ● 画面の中から複数の顔を見つけた場合は、その中で画面中央に近い比較的大きな顔を優先して撮影します。
 ファミリー優先認識モード	人物の顔を検出し、画面の中から複数の人物の顔を見つけた場合に、あらかじめ「ファミリー登録」で登録されている特定の人物の顔を最優先して撮影します。

人物の顔を検出して撮影する(通常認識モード)

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目(顔認識)を選ぶ



3. 【◀】【▶】で“ 顔認識:通常認識”を選び、【SET】を押す

4. 人物にカメラを向ける

人物の顔を検出します。検出が終了すると、検出した顔にフレームが表示されます。



5. シャッターを半押しする

ピントの合った顔のフレームが緑色に変わります。

6. シャッターを全押しして撮影する

顔の明るさが適切になるように調整して撮影します。

参考

- 顔認識撮影時にAFエリアを“ 追尾”に設定すると、シャッターを半押ししたとき、顔の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します(83ページ)。

特定の人物の顔を最優先して撮影する (ファミリー優先認識モード)

■ 家族など特定の人物の顔をデータ登録する (ファミリー登録)

ファミリー優先認識モードでは、あらかじめ撮影時に優先させたい家族や友人の顔データをカメラに登録しておく必要がありますので、初めにファミリー登録を行ってください。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目(顔認識)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で“ ファミリー登録”を選び、【SET】を押す

4. 登録したい人物の顔に対して正面からカメラを向け、顔の大きさが画面のフレームに合うようにして、シャッターを押す



5. 「認識に成功しました」と表示されたら、【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す

- 人物の顔データが登録され、撮影できる状態に戻ります。
- 登録をやりなおしたいときは、“キャンセル”を選んでください。

参考

- 人物の顔データは最大6人分まで登録できます。
- 登録した人物の顔データは、内蔵メモリー内の「FAMILY」フォルダに保存されます(167ページ)。このフォルダ内のデータに手を加えると、カメラが正常に動作しなくなる恐れがありますので、消去したり編集したりしないようにご注意ください。

■ 登録した顔データの優先順位を設定する (ファミリー編集)

人物の顔データをカメラに登録したら、その顔データに名前と撮影時の優先順位を設定します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目(顔認識)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で“ ファミリー編集”を選び、【SET】を押す
顔データの編集画面が表示されます。
4. 【▲】【▼】【◀】【▶】で設定したい顔データを選び、【SET】を押す



5. 【◀】【▶】で名前を選び、【▼】を押す

- 名前はあらかじめ用意されている12種類の中から設定できます。

6. 【◀】【▶】で撮影時の優先順位を選び、【SET】を押す

- 優先順位は“●●★”(低)～“★★★”(高)の4段階の間で設定できます。“●●●”(無効)に設定すると、その顔は認識されなくなります。

ファミリー登録した顔データを消去する

登録した顔データは、以下の手順で消去することができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目(顔認識)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で“ ファミリー編集”を選び、【SET】を押す
4. 【MENU】を押す
5. 通常の消去方法(131ページ)と同様に操作して、人物の顔データを1データずつ、または一括して消去する
 - 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

参考

- 内蔵メモリーをフォーマット(139ページ)すると、登録した顔データはすべて消えてしまいます。

■ ファミリー登録／編集した人物の顔を最優先して撮影する

ファミリー登録／編集が終了後は、家族や友人など優先順位を付けた人物の顔を最優先して撮影することができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目(顔認識)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で“ 顔認識：ファミリー優先”を選び、【SET】を押す

4. 人物にカメラを向ける

登録した顔データの人物の顔を検出します。検出が終了すると、検出した顔にフレームが表示されます。

- フレームの色は、撮影時の優先順位に合わせて“白”(低)→“黄”→“緑”(高)と色分け表示されます。“緑”のフレームの人物が撮影時に最優先の人物となります。



5. シャッターを半押しする

一番優先順位の高い顔(フレームが緑色の顔)にピントと明るさを合わせます。ピントと明るさが合うと、緑色のフォーカスフレームが表示されます。

6. シャッターを全押しして撮影する

参考

- ファミリー優先認識モードでは、AFエリアは“ 追尾”に設定されます(83ページ)。

人物の顔の検出方法を設定する(優先設定)

人物の顔を検出するとき、検出する速度と検出する人数のどちらかを優先させることができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から3番目の項目(顔認識)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で“ 優先設定”を選び、【SET】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
 - スピード優先：顔を検出するまでにかかる時間を短くできます。ただし、一度に検出できる顔は最大5人までです。
 - 人数優先：一度に検出できる顔を最大5人から最大10人に増やします。

参考

- 通常認識モードで撮影時に“人数優先”に設定すると、“スピード優先”に設定したときよりも距離が遠くて小さい顔が検出できるようになります。

顔認識撮影時のご注意

- 一度に検出できる人物の顔は、優先設定が“スピード優先”のときに最大5人、“人数優先”のときに最大10人です。
 - 次のような人物は、顔が検出できません。
 - 顔の一部が頭髮、サングラス、帽子などでさえぎられている人物
 - 顔に濃い影が落ちている人物
 - 顔が横や斜めに傾いている人物
 - 顔が横向きの人物
 - 距離が遠すぎて、顔が小さすぎる人物
 - 距離が近すぎて、顔が大きすぎる人物
 - 極端に暗い場所での人物
 - ペットなど人物以外の被写体の顔は検出されません。
 - ファミリー登録されている人物であっても、表情などの状況や周囲の環境によっては正しく認識(最優先)されない場合があります。
 - 同じ人物の顔を室内と屋外で、または表情やアングルを変えて重複登録しておくことで、その人物の認識率を向上させることができます。
 - ファミリー優先認識モードでは、顔が同一人物かどうかの照合を行うため、通常認識モードよりも顔の検出速度がやや遅くなります。また、通常認識モードと比べて、距離が遠くて小さい顔の認識はできません。
 - 顔が見つからない状態でシャッターを押すと、中央にピントを合わせて撮影します。
- 顔認識撮影時のフォーカスモードは必ずオートフォーカス(AF)となります。それ以外のフォーカスモードは使用できません。
 - カメラを縦に持って撮影した場合、横に持って撮影した場合と比べ、顔を検出するまでにやや時間がかかります。
 - 下記の撮影では、顔認識撮影はできません。
 - ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”、“証明写真”、“ムービー”、“ショートムービー”、“パストムービー”、“YouTube”、“レイアウトショット”、“オートフレーミング”、“ボイスレコード”)
 - 顔認識撮影では、下記の機能が使用できません。
 - AFエリアのマルチAF
 - 連写

動画を撮影する

動画の画質を決める

撮影前に、動画の画質を選びます。動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさや滑らかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位にすると美しく撮影できますが、撮影できる時間は短くなります。

- 動画の撮影可能時間は、最大10分となります。10分を超えると、自動的に撮影は終了します。

画質(pixels)	転送レート	フレームレート
UHQ	640×480 約5.8メガビット/秒	30フレーム/秒
UHQワイド	848×480 約7.0メガビット/秒	30フレーム/秒
HQ	640×480 約2.8メガビット/秒	30フレーム/秒
HQワイド	848×480 約3.4メガビット/秒	30フレーム/秒
Normal	640×480 約1.4メガビット/秒	30フレーム/秒
LP	320×240 約545キロビット/秒	15フレーム/秒

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“ 画質”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で希望の画質を選び、【SET】を押す
 - 画質を“UHQワイド”または“HQワイド”に設定すると、液晶モニターに“**WIDE**”が表示されます。

動画の形式

撮影した動画は、MOV形式、H264/AVC準拠で記録されます。本機で撮影した動画は、パソコンにコピーしてQuickTime 7で再生することができます。

動画のサイズ

1分間撮影した動画のファイルサイズは、おおよそ以下のとおりです。

画質	サイズ
UHQ	約43.3MB
UHQワイド	約52.3MB
HQ	約20.8MB
HQワイド	約25.3MB
Normal	約10.4MB
LP	約4.1MB

動画を撮影する(ムービー)

動画とともに音声も記録されます。音声はモノラルです。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ ムービー”のシーンを選び、【SET】を押す
液晶モニターに“ ”が表示されます。

3. シャッターを押して撮影を開始する

- 撮影中は、“ REC”が表示されます。

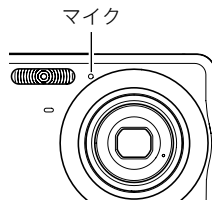
4. もう一度シャッターを押して撮影を終了する

- 動画の撮影可能時間は、1回の撮影で最大10分までです。シャッターを押す前に10分を超えると、自動的に撮影は終了します。また、シャッターを押す前にメモリーがいっぱいになると、撮影は終了します。



動画撮影時のご注意

- フラッシュは使えません。
- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - ー 指などでマイクをふさがないようにください。
 - ー 録音の対象がカメラから遠くになると、きれいに録音されません。
 - ー 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。
- 極端に明るい被写体を撮影しようすると、液晶モニターの画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象)が、故障ではありません。この帯は動画にそのまま記録されます。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、“ ”と“ REC”が点滅します。このため、最大転送速度が10MB/s以上のメモリーカードの使用をおすすめします。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。シャッターを押す前であれば、光学ズームは使用できます(47ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。



動画撮影時の手ブレ軽減

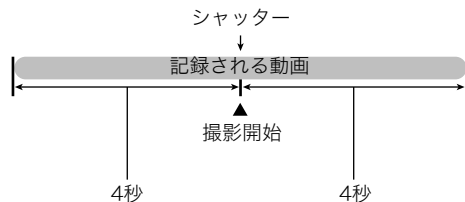
動画を撮影するとき、手ブレを軽減しながら撮影することができます(71ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。また、画角が狭くなります。

- カメラの撮影範囲外ではピントが合わず、ぼけた画像になります。

短時間の動画を撮影する(ショートムービー)

シャッターを1回押すと、その前後の4秒間が動画として記録されます。

- シャッターを押す前の4秒も記録されるので、子供のちょっとしたしぐさなど、撮るのがしたくないシーンをしっかり記録できます。
- 決定的シーンの静止画がほしいときは、ショートムービーで撮影し、そこから気に入ったシーンをモーションプリント機能(121ページ)で静止画にする、という使いかたもできます。



1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ショートムービー”のシーンを選び、【SET】を押す

液晶モニターに、“”が表示されます。

シャッターを押す前後約4秒の動画を撮影できます。

3. カメラを被写体に向け、シャッターを押す

後半4秒間の動画が記録され、撮影は終了します。

早めに撮影を終了したいときは、もう一度シャッターを押します。

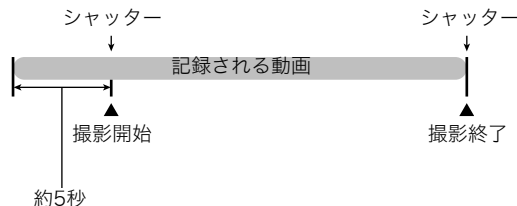


重要

- シャッターを押す前から、動画の記録は始まっています。カメラをしっかり被写体に向けておいてください。ここだ、と思ったときにシャッターを押します。シャッターを押すと、押した後の撮影時間が4、3、2、1・・・とカウントダウン表示されます。

撮影開始前のシーンも動画に記録する (パストムービー)

パストムービーは、シャッターを押して撮影開始、もう一度シャッターを押して撮影終了する点は普通のムービーと同じですが、撮影を開始する約5秒前から動画が記録されます。決定的シーンの撮りのがしを防ぐことができます。



1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“パストムービー”のシーンを選び、
【SET】を押す

液晶モニターに“”が表示されます。

この状態で、パストムービーの撮影ができます。

3. カメラを被写体に向け、シャッターを押して撮影を開始
する

4. もう一度シャッターを押して撮影を終了する

シャッターを押す前にメモリーがいっぱいになると、撮影
は終了します。

重要

- シャッターを押す約5秒前から動画の撮影が始まっていますので、シャッターを押す前もしっかりとカメラを構えていてください。

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

逆光で人物を撮影したら顔が黒く写ってしまった、またはサッカーの試合を撮影したら選手の姿がブレて写ったなど、被写体や撮影条件によっては望みどおりの写真が撮れないことがあります。そのようなときは、本機に収録している撮影シーンから、望みのイメージに合ったシーンを選んでみてください。操作は【BS】を押して適切なシーンを選ぶだけです。

■ 撮影シーンの例

- “人物を写します”



- “夜景を写します”



- “風景を写します”



- “人物と夜景を写します”



■ シーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

ベストショットモードになり、15個のシーン一覧が表示されます。

- 初期状態では“” (オート) が選択されています。

枠(現在選択されているシーン)



シーン名

シーン番号

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ

- 【▲】【▼】を押していくと画面が切り替わり、別のシーン一覧が表示されます。
- ズームボタンを押すと、選んだシーンの説明画面が表示されます。この画面で、どんな設定になるかを確認できます(69ページ)。ズームボタンを押すと一覧に戻ります。
- “オート”での撮影に戻るには、シーン番号1の“” (オート)を選んでください。シーンの一覧またはシーンの説明画面が表示されている状態で【MENU】を押すと、枠が“” (オート)へジャンプします。

3. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- 別のシーンを選び直すには、手順1からの操作を繰り返します。

4. シャッターを押して撮影する

- “ムービー”のシーンを選択した場合は、シャッターで撮影の開始と終了を行います(63ページ)。



重要

- “夜景を写します”、“花火を写します”ではシャッター速度が遅くなります。このシーンでは画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理をしています。このため、撮影が終わるまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作をしないでください。また、手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。
- 本機にはオークションサイトへの出品物を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した画像は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます(167ページ)。

- 本機にはYouTubeサイトへアップロードするのに最適な動画が撮影できる“YouTube”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した動画は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます(167ページ)。
なお、このシーンで撮影した動画は「画質:Normal」となります。また、撮影時間は最大10分となります。
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。変更した内容を何度も使いたいときは、カスタム登録してください(69ページ)。

シーンの説明画面での操作

選んだシーンの設定内容を見たいときは、シーン一覧でズームボタンを押してください。

説明画面では、以下の操作ができます。

- 15個表示に戻る:ズームボタンを押す
- 次の(前の)シーンを表示する:【◀】【▶】を押す
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る:【SET】を押す

参考

- シーンの説明画面で【SET】を押して撮影できる状態に戻った場合、【BS】を押すと、選んだシーンの説明画面が表示されます。



■ 自分好みの設定をベストショットに登録する(カスタム登録)

うまく撮れた静止画の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“BEST SHOT”（新規登録）のシーンを選び、【SET】を押す
3. 【◀】【▶】で登録したい静止画を選ぶ
4. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す
登録したシーンには、“マイベストショット”という名前が付きます。



重要

- 内蔵メモリーをフォーマット(139ページ)すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。

参考

- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録したシーン番号は、登録した順にU1、U2・・・となります。
- 登録される設定内容は下記の通りです。
顔認識、フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、カラーフィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- あらかじめカメラに収録されているシーン以外に、最大999件まで登録できます。
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます(167ページ)。

マイベストショットを削除する

自分で登録(カスタム登録)したマイベストショットは以下の手順で削除することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. ズームボタンを押して、説明画面を表示させる
3. 【◀】【▶】で削除したいマイベストショットを選ぶ
4. 【▼】()を押す
5. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押す
選択したマイベストショットが削除され、次のシーン(マイベストショットまたは新規登録)が表示されます。
6. 【◀】【▶】で別のシーンを選び、【SET】を押す
 - 撮影できる状態に戻ります。

手ブレや被写体ブレを軽減する

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見ることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。ブレ軽減の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。

次のどちらかの操作でブレ軽減の機能を選んでください。

■ ベストショットから選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ブレ軽減”のシーンを選び、【SET】を押す

次に別のシーンを選ぶまで“ブレ軽減”のシーン設定で静止画撮影できます。

■ 操作パネルから選ぶ

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの上から4番目の項目(ブレ軽減)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で“オート”を選び、【SET】を押す

- ブレ軽減撮影に設定すると、液晶モニターに“”が表示されます。
ブレ軽減の機能を使わないときは、ここで“切”を選びます。

★ 重要

- ISO感度を「オート」にしていないと、ブレ軽減の機能が動きません(89ページ)。
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、ブレ軽減アイコン“”は表示されていますが、ブレ軽減機能は動きません。
- ブレ軽減で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 動画を撮影するときも、手ブレを軽減しながら撮影することができます。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません(63ページ)。
- シャッター速度が遅くなる撮影をすると、手ブレによるブレを軽減できない場合があります。その場合は、三脚を使用してください。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

フラッシュなしで明るく撮影する

暗い場所で撮影するとき、カメラの感度を上げることにより、フラッシュを使わなくても画像が暗くなるのを防ぐことができます。



通常の撮影
(フラッシュ発光時)



感度を上げた撮影

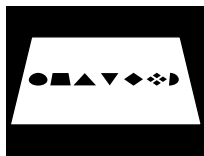
1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“高感度”のシーンを選び、【SET】を押す
3. シャッターを押して撮影する
次に別のシーンを選ぶまで“高感度”のシーン設定で撮影できます。

重要

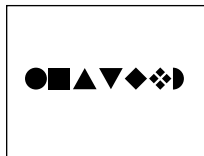
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、高感度撮影機能は働きません。
- “高感度”のシーンで撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感がやや劣る場合があります。
- 極端に暗い環境では、思ったように明るく撮影できない場合があります。
- シャッター速度が遅くなる撮影をする場合、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットのシーンを選べば、斜めから撮影した画像を正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。



補正処理前



補正処理後

ベストショットに2つのビジネスショットのシーンが用意されています。

- “名刺や書類を写します”
- “ホワイトボードなどを写します”



■ ビジネスショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“名刺や書類を写します”または“ホワイトボードなどを写します”のシーンを選び、【SET】を押す

次に別のシーンを選ぶまでビジネスショットでの撮影ができます。

■ ビジネスショットで撮影する

1. ビジネスショットのシーンを選んだ後、シャッターを押す

補正確認画面が表示されます。

赤い枠内が補正される領域で

す。黒い枠が表示される場合、

黒い枠は別の補正領域候補を示しています。別の補正領域候補が表示されない場合は手順3に進んでください。

● 補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、「この画像は補正できませんでした」というメッセージが表示されます。その後、補正されずに画像が保存されます。



2. [◀][▶]で補正領域を選ぶ

3. [▲][▼]で“補正”を選び、[SET]を押す

補正された画像が保存されます。

- 補正せずに保存するときは、“キャンセル”を選びます。

重要

- 被写体が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。被写体が液晶モニターからはみ出すと補正できません。
- 被写体と背景が同色の場合、補正できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
- ビジネスショットで撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

証明写真を撮影する

1つの撮影画像から、さまざまなサイズの証明写真を簡単に作成することができます。

作成される証明写真のサイズは下記の通りです。

30×24mm、40×30mm、45×35mm、50×40mm、
55×45mm

■ “証明写真”のシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして[BS]を押す

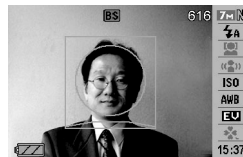
2. [▲][▼][◀][▶]で“証明写真”のシーンを選び、[SET]を押す

次に別のシーンを選ぶまで“証明写真”のシーン設定で撮影ができます。

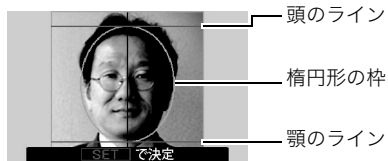
■ “証明写真”のシーンで撮影する

1. 液晶モニターに表示されるフレームに被写体を合わせ、シャッターを押して仮撮影する

- この操作で撮影した画像は、手順3を行うまではカメラに保存されません。



2. 液晶モニターに表示されるフレームに被写体を合わせる



顔が楕円形の枠いっぱい収まるように調整してください。また、頭のラインと顎のラインからはみ出ないように調整してください。

【▲】【▼】【◀】【▶】：被写体を上下左右に移動

ズームボタン：被写体を拡大／縮小

3. 【SET】を押す

撮影した画像がカメラに保存されます。

重要

- 画像サイズは自動的に7M(3072×2304 pixels)に固定され、保存されます。

■ 証明写真を印刷する

証明写真用に保存された画像を印刷すると、複数のサイズの証明写真が1枚の用紙にレイアウトされて印刷されますので、必要なサイズの写真を切り抜いてご使用ください。

重要

- 実際に印刷されるサイズは、目的のサイズより多少大きめのサイズとなります。
- この画像を印刷する際は、必ず用紙サイズを“はがき”に設定してください(143ページ)。他の用紙サイズで印刷すると、適切なサイズの証明写真になりません。
- この画像を印刷する際は、必ずプリンター側を“フチなし”に設定してください。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

古く色あせた写真を蘇らせる (よみがえりショット)

古く色あせた写真を撮影し、あせた色を補正することにより、古い写真を最新のデジタル写真として蘇らせることができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する前に

- 写真が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。
- 写真と背景の境界がはっきりするような構図で、できるだけ画面いっぱいに撮影してください。
- 写真表面に光の反射が写り込まないように撮影してください。
- 縦向きで撮影された写真は、必ず写真が横向き(横長の状態)になるような構図で撮影してください。

参考

- 写真の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は写真の輪郭を検出し、画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

■ よみがえりショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“古い写真を写します”のシーンを選び、【SET】を押す

次に別のシーンを選ぶまで“古い写真を写します”のシーン設定で撮影ができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する

1. シャッターを押して、写真を撮影する

- 写真の輪郭確認画面を表示し、続けて撮影した元画像を保存します。ただし、写真の輪郭が検出できない場合は輪郭確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(183ページ)。



2. 【◀】【▶】で輪郭候補を選ぶ

3. 【▲】【▼】で“決定”を選び、【SET】を押す

画像の一部を切り抜く操作(トリミング)に入り、液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。

- 補正せずに保存するときは、“キャンセル”を選びます。

4. ズームボタンを押して枠を拡大／縮小し、補正する画像の大きさを決める



5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分に枠を移動して補正する画像の位置を決め、【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも補正画像を小さく指定してください。
- 【MENU】を押すと色の補正を中止し、撮影した元画像を保存します。

重要

- よみがえりショット機能で撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- 下記の場合は、撮影した写真の認識ができません。
 - － 撮影した写真が液晶モニターからはみ出した場合
 - － 写真と背景が同色の場合
- よみがえりショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。
- 写真の退色度合いにより、補正の効果が表れない場合があります。

複数の写真を組み合わせて撮影する (レイアウトショット)

複数のフレーム毎に撮影を行い、最終的にレイアウトした画像のみを記録する機能です。

- レイアウトショット
(2枚撮影)



- レイアウトショット
(3枚撮影)



1. 撮影モードにして、【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“レイアウトショット”(2枚撮影)または“レイアウトショット”(3枚撮影)を選び、【SET】を押す
3. 【◀】【▶】で背景の色を変える

4. シャッターを押して撮影する

1枚目を撮影し終わると、次の写真が撮影できる状態になりますので、2枚目以降も同様にシャッターを押して撮影してください。

- 撮影中に【SET】を押すと、配置されている状態の画面と現在撮影している画像のみ画面を切り替えることができます。
- 【MENU】を押すと撮影済みの画像が消え、1枚目の撮影に戻ります。
- レイアウト上のすべての写真を撮影しないと、写真は保存されません。



フレーム



重要

- 保存される画像は、レイアウトされた画像のみです。
- 画像サイズは自動的に7M(3072×2304 pixels)に固定され、保存されます。
- ISO感度は“オート”に、AFエリアは“スポット”に自動的に固定されます。
- レイアウトショットでは、下記の機能が使用できません。
 - デジタルズーム
 - セルフタイマー
 - 連写
 - 顔認識

被写体を自動的に追従して撮影する (オートフレーミング)

動きのある被写体に追従し、被写体がある写真の撮ることが出来ます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“オートフレーミング”を選び、【SET】を押す

3. 撮影したい被写体にフォーカスフレームを合わせてシャッターを半押ししたままにする

フォーカスフレームとトリミング枠が被写体の動きに追従します。

- シャッターを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

フォーカスフレーム



トリミング枠

4. シャッターを全押しして撮影する
トリミング枠で囲まれた部分のみ保存されます。

重要

- 保存される画像はトリミング枠で囲まれた部分のみです。
- 画像サイズは自動的に3M(2048×1536 pixels)に固定され、保存されます。
- オートフレーミングでは、下記の機能が使用できません。
 - － タイムスタンプ
 - － セルフタイマー
 - － 連写
 - － 顔認識
- 動きの速い被写体には、正しく追従しないことがあります。その場合は、シャッターの半押しをやめ、再度撮影したい被写体にフォーカスフレームを合わせ直してシャッターを半押ししてください。
- “オートフレーミング”では、画像サイズが“3M(2048×1536 pixels)”になりますが、画像に劣化が生じない範囲は、3倍となります(48ページ)。